条幅規定参考手本　―7月30日締切―

〈隷書〉



井之上南岳先生書

（この課題で書体は自由。但し、この課目は一人一点のみとする）

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

〈楷書〉



清原大龍先生書

□夏雨染め成す千樹の緑　暮風散じ作す一江の烟（銭惟善）

次号予告「秋風棄扇知安命　小灶留燈悟養生」

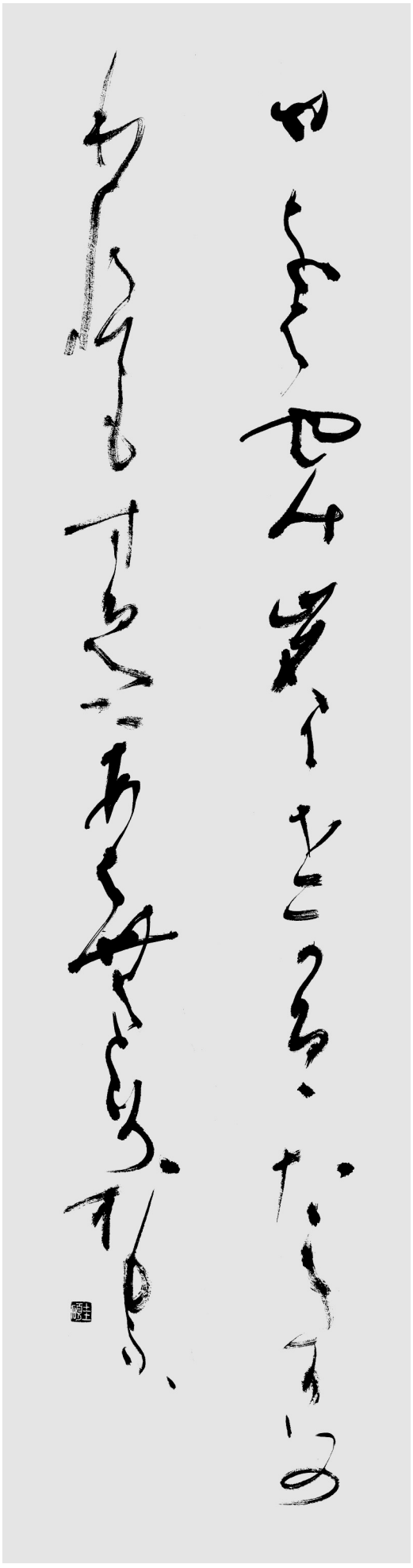
〈行　書〉



山本飛雲先生書

▽夏の雨が降ればすぐに多くの木を緑にする、そして夕暮れの風が吹くと入江一面の霞となって散ずる心地がする。

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



舟尾圭碩先生書

□せを者（は）やみ　岩尓（に）せ可（か）るゝ　たき可八（かは）の　われてもすゑ二（に）　あ者（はむ）無とそおもふ　〈百人一首　七十七〉

瀬をはやみ　岩にせかるゝ　滝川の　われても末に　あはむとそ思ふ

条幅随意（臨書）（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点のみとする）



吉田成美先生臨

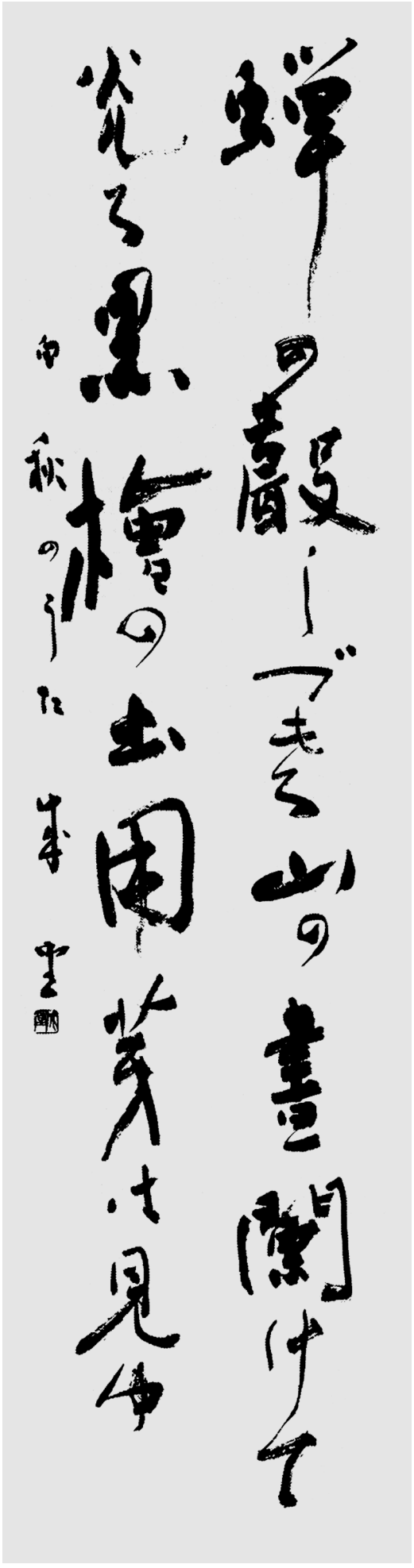
▽鄭羲下碑

条幅随意（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

魏故中書令祕書監使持節督兗州諸軍

吉田成堂先生書

□北原白秋のうた　蟬の聲（こえ）　しづもる山の　晝闌（ひるた）けて　光る黒檜（くろび）の　土用芽は見ゆ



≪手本（課題例）にとらわれず意欲的な作品を期待します。≫

半折作品は各課目ごとに横1/8に一枚ずつたたんで提出ください。

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□水原秋櫻子の句　向日葵の　空かゞやけり　波の群

文字の大小や潤渇の変化と、句情を意識して書いてみてください。

坂　元　紫　香　先　生　書

条幅随意参考手本（半折½縦のみ）　— 7月30日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



□楽　康（らくこう）〈屈原〉安楽の意
遅速の変化を意識しました。落筆を高くして筆の開閉を楽しんでみましょう。

小　畠　秋　聲　先　生　書

半紙規定参考手本　　―7月30日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□物各々其の類に従う（「易経」乾卦）
万物はおのおの自分と同類のものに従う。

吉　田　成　美　先　生　書

次号予告「周急不繼富」

半紙規定参考手本　　―7月30日締切―

（この課題で書体は自由。但、この課目は一人一点とする）



□物各々其の類に従う（「易経」乾卦）
万物はおのおの自分と同類のものに従う。

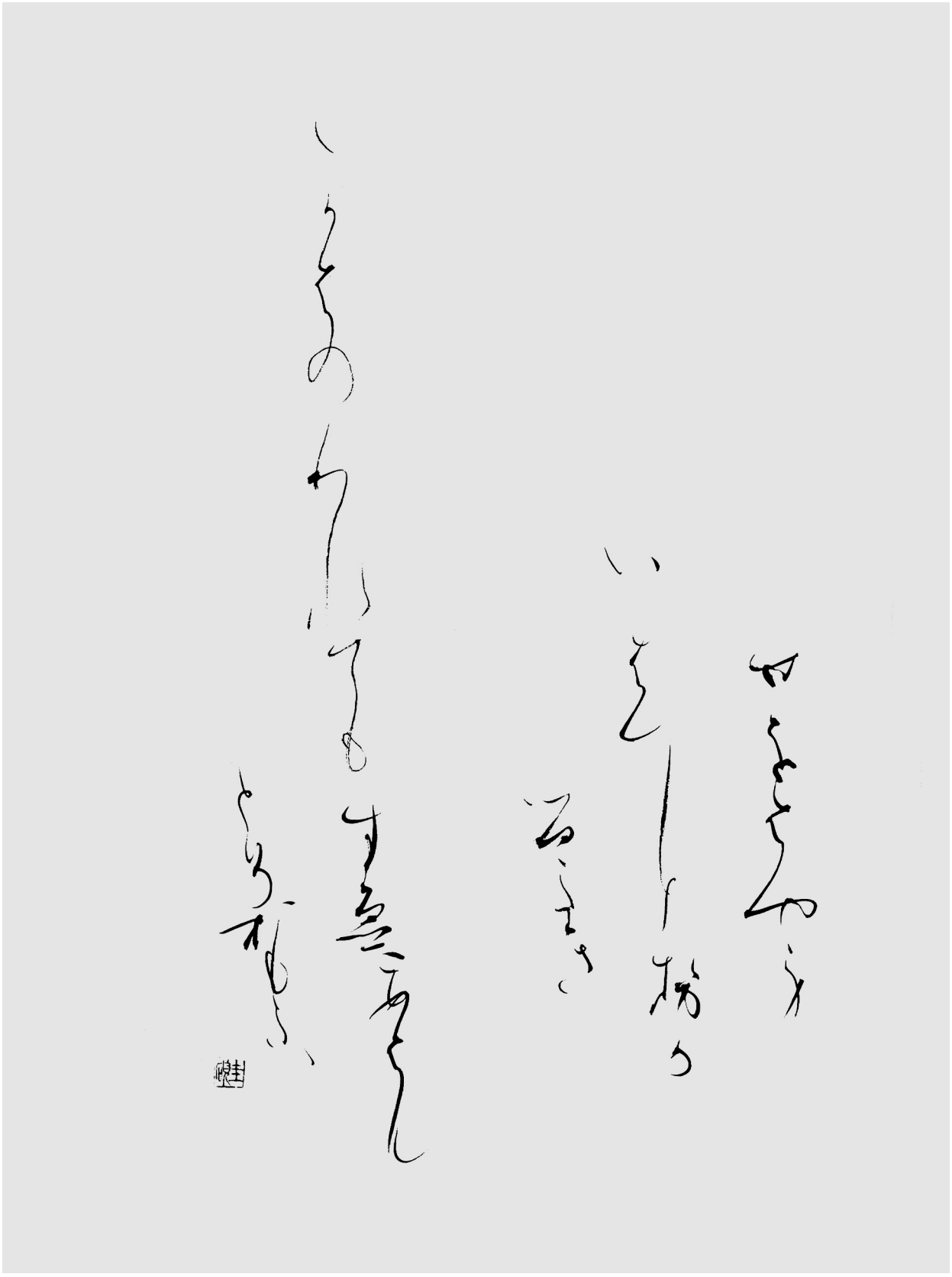
吉　田　成　美　先　生　書

次号予告「周急不繼富」

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

瀬をはやみ　岩にせかるゝ　滝川の　われても末に　あはむとそ思ふ



〈仮　名〉

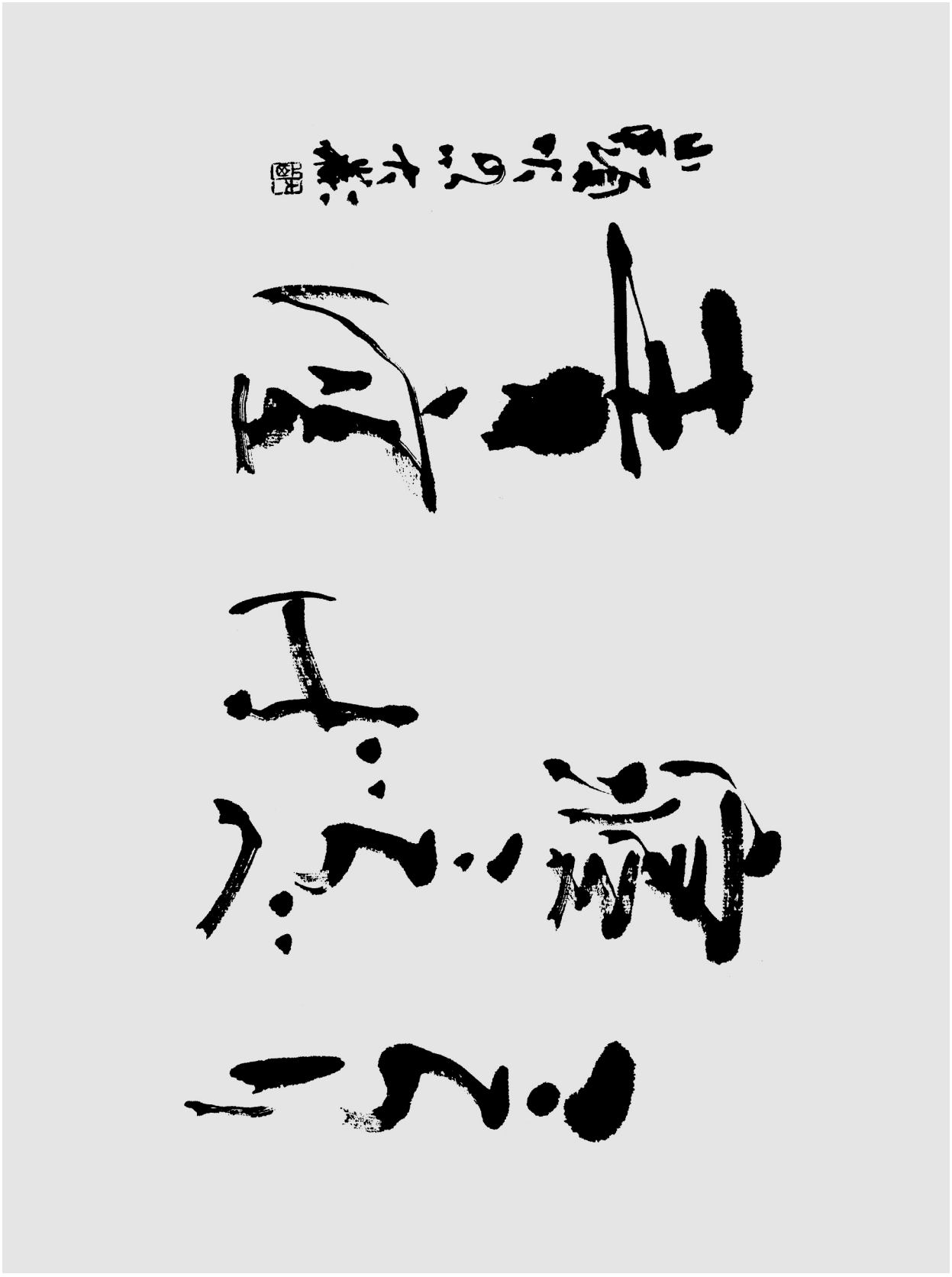
せを者や身い者耳勢可るゝ　多き可者の　われてもすゑ二　あ者无とそおもふ

舟　尾　圭　碩　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

〈詩文書〉　種田山頭火の句　ころり　寝ころべば　青空



※出品券は、半紙をタテにした左下に貼って提出ください。（ヨコ作品の場合も半紙をタテにして同様に貼ってください）

渡邉大嶽先生書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）

□行雨朝雲（こううちょううん）（楚〈戦国〉宋玉「高唐賦序」）
降る雨と朝の雲。美しい神女の姿をいう。



次号予告「如鳥過目」

清　原　大　龍　先　生　書

半紙随意（臨書）参考手本　　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目は一人一点とする）



「魏故中書令祕」

〈臨　書〉　円筆で懐の広いゆったりとした気持ちで伸びやかに書こう。

吉　田　成　美　先　生　臨

半　紙　随　意　参　考　手　本　　— 7月30日締切 —

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



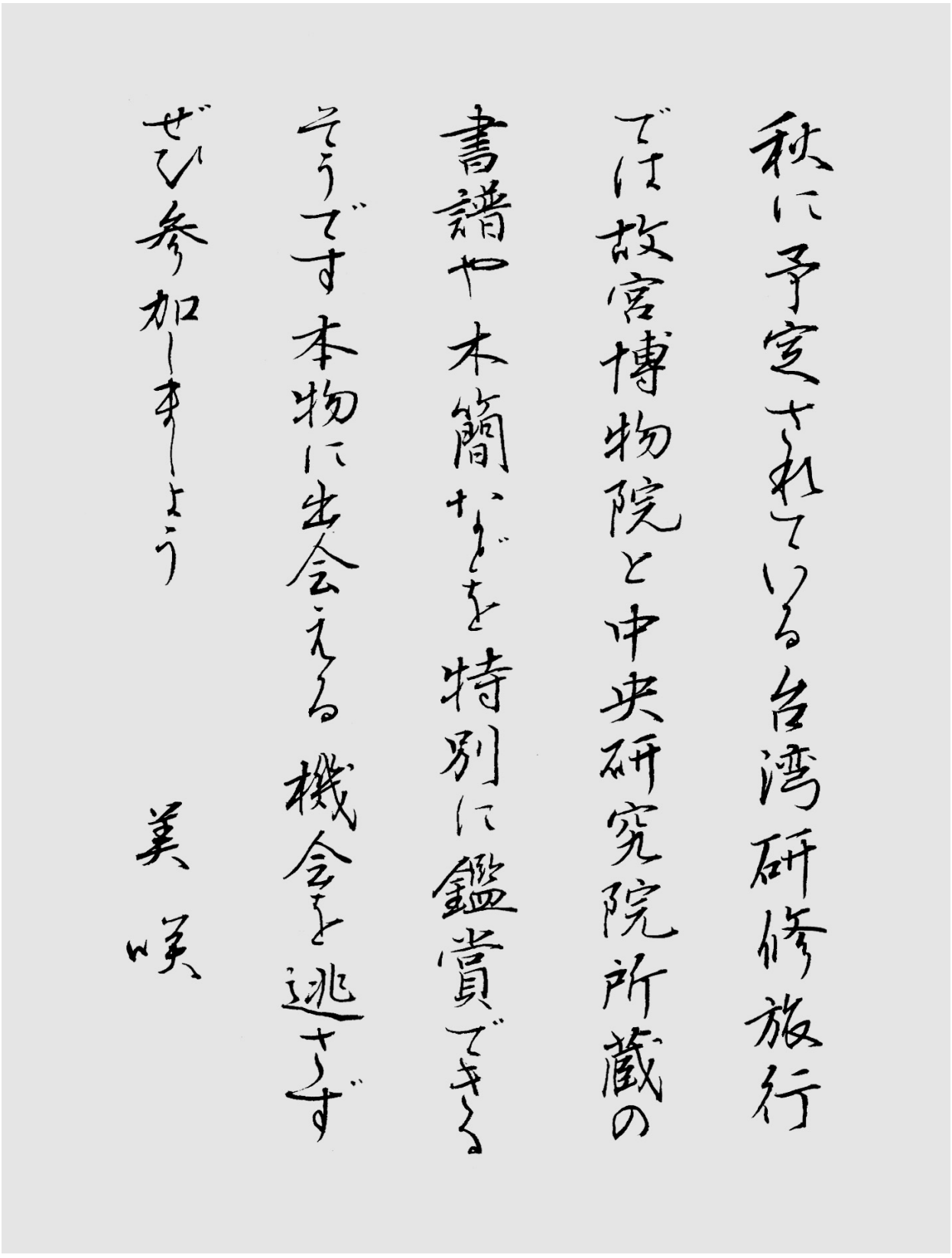
〈実用書〉

文月　夕涼み　猛暑のみぎり　銀河　蛍狩り　炎熱の都会
避暑　熱帯夜　ガラスの風鈴　休暇　入道雲　暑中見舞

秋　永　春　霞　先　生　書

半　紙　随　意　参　考　手　本　　―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目のいずれか一点のみとする）



〈手紙文〉

秋に予定されている台湾研修旅行では　故宮博物院と中央研究院所蔵の書譜や木簡などを特別に鑑賞できるそうです　本物に出会える機会を逃さず　ぜひ参加しましょう　美咲

大　坪　桂　子　先生書

一般硬筆部参考手本＜A＞ ―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

〈暮らしに役立つ書〉

書譜

就職の内定おめでとうございます。
日頃からの努力が報われましたね。
就職活動中もお稽古を休むことなく、
スーツ姿で熱心に取り組む様子を感心
して見ていました。今ではスーツも
馴染んでいますね。
大学生活も残すところ半年、友香さん
の持ち前の明るさと行動力で、実りある
日々をお過ごしくださいね。

知恵

罫のある便箋に書いてみよう。〈26cm×18cm〉紙質は自由。

※ 本研究社にて「特選便箋」を発売しております。本誌裏面をご参照の上、ご利用ください。

兵頭白慧先生書

一般硬筆部参考手本＜B＞ ―7月30日締切―

（この課題以外の語句書体自由のものもよい。但、この課目Ａ・Ｂのいずれか一点のみとする）

我ながら知らないことの多さに恥じ入る。子どもの頃よく飲んだカルピスが、一九一九年の七月七日の発売だと初めて教えられた。パッケージの水玉模様は天の川の星々を表すことも。

段　級
氏　名

小　畠　秋　聲　先　生　書

今月のかきかたドリル　（形や注意する点に気をつけてゆっくり書こう！）

中　学	小学６年	小学５年	小学４年	小学３年	小学２年	小学１年	ようねん
畳	置	必	感	書	魚	そ	た
畳	置	必	感	書	魚	そ	た
畳	置	必	感	書	魚	そ	た

一般の方も是非チャレンジしてください。

坂元紫香先生書

学生部条幅¼　参考手本　　―7月30日締切―



ようねん・小学1年　小学2年　小学3年　小学4年



小学5年　小学6年　中学1年　中学2・3年

（この課題以外の語句のものもよい。但し、その学年にふさわしい語句が望ましい。）

秋永春霞先生書

〈条幅¼＝四尺画仙紙半折¼…68cm×17・5cm〉

学生毛筆部規定参考手本　―7月30日締切―

ようねん・小学一年



□「せ」は二画目と三画目の書き始めの位置に気をつけましょう。〝ハネ〟・〝ハライ〟もていねいに。

次号予告「こ　め」

小学二年



□「み」「な」の〝むすび〟は筆の軸だけをまわさず、腕全体で書きましょう。

次号予告「むぎのほ」

坂元紫香先生書

小学三年



□画の接する場所や、〝ハネ〟・〝ハライ〟・〝曲がり〟に気をつけ、伸びやかに書こう。

次号予告「茶つみ」

小学四年



□平仮名の〝結び〟は軽く筆をうかせてゆっくりと進み、「花」は字形に注意しよう。

次号予告「風　道」

吉田成美先生書

学生毛筆部規定参考手本　―7月30日締切―

小学五年



□「流」は〝川〟の間かく、「星」は横画の間かくに気をつけて書きましょう。

次号予告「秋の夜長」

小学六年



□二文字とも左右の払いを伸び伸びとゆっくり書き、「夏」の一画目はしっかりと書こう。

次号予告「天然肥料」

秋永春霞先生書

中学一年



□行書の特徴である点画の連続や省略を意識して、流れよく伸びやかに書きましょう。

次号予告「人間の尊厳」

中学二・三年



□漢字と仮名の筆脈や文字の大きさを意識しながら、調和のある作品に心がけましょう。

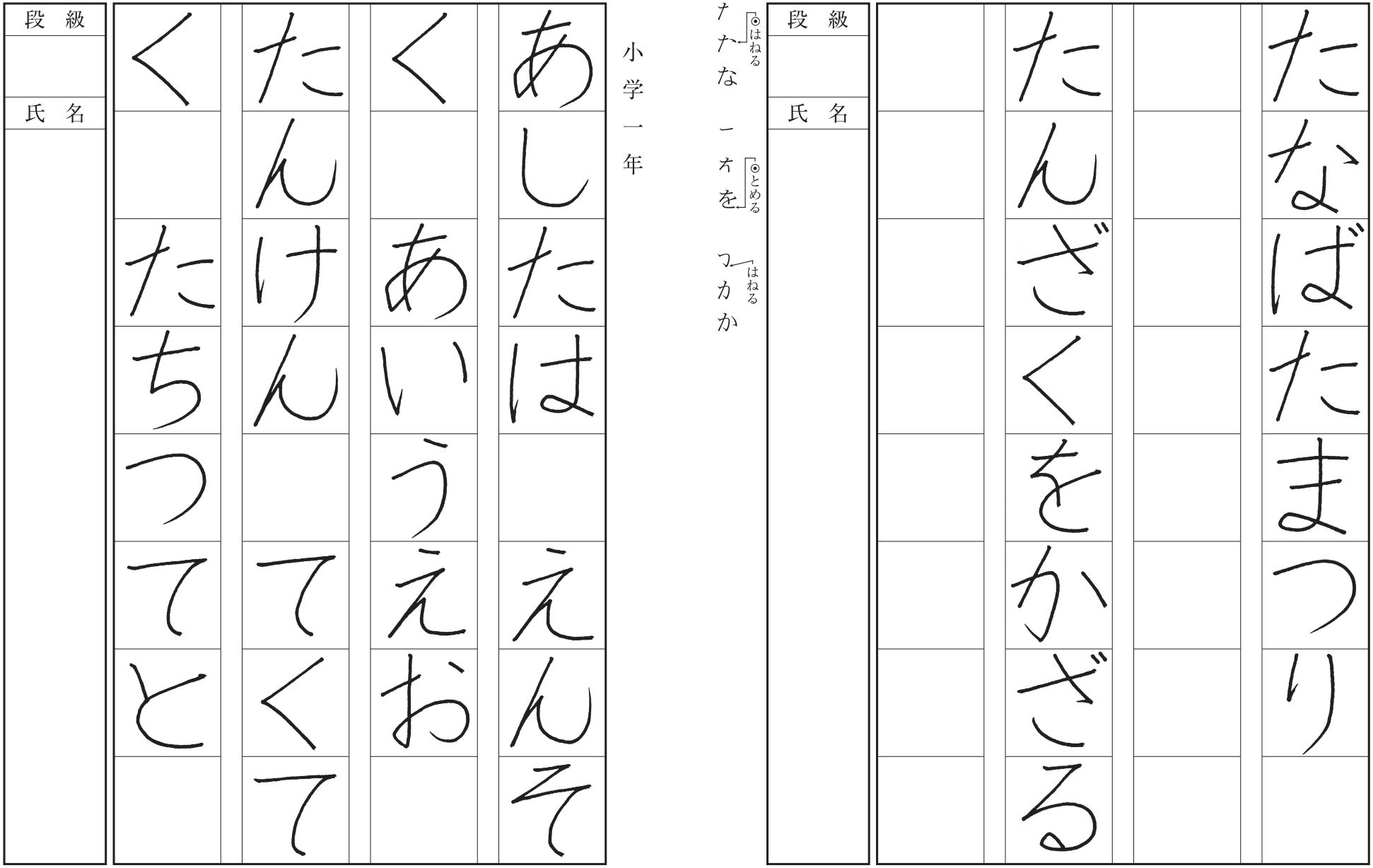
次号予告「人権尊重」（行書）

吉田成美先生書

学生硬筆部規定参考手本　―7月30日締切―

ようねん

（※ようねんの方は、小学一年の課題を書いてもよい。但、審査は従来通りです。）



坂元紫香先生書

学生硬筆部規定参考手本

―7月30日締切―

小学二年

いっしょにおよぐんだ。海でいちばん大きなお魚のふりをして。

段級

氏名

小学三年

七夕に、ねがいごとをたんざくに書いて、ささ竹につるすと、ねがいがかなうと言われています。

段級

氏名

坂元紫香先生書

七夕（たなばた）
一七 ノ 𠂉 夕 「 ⺕ ⺕ 彐 聿 書 、 亠 亠 言 言
しっかりとめる　すこしあける　ながくつきでる

氵 汇 汇 海 海 海 一 ナ 大 ノ 𠂉 𠂉 角 角 魚
はねる　母ではない　しっかりつける　てんのむきにちゅういする　（さかな）

小学四年

完成させた新聞を、クラスのみんなで読み合い、内容や書き方について、感想をつたえ合いましょう。

段級

氏名

坂元紫香先生書

小学五年

わたしたちは、聞き手や、会話の中に出てくる人などに対して敬意を表すために、必要に応じていていねいな言葉づかいをします。これを、敬語といいます。

段級

氏名

小畠秋聲先生書

学生硬筆部規定参考手本

―7月30日締切―

小学六年

学級文庫には、まんがを置いていいと思います。さまざまな本に親しむのも学級文庫の役割で、まんがだからといって除かれるのはおかしいと思うからです。

段級

氏名

置 罒 罒 罒 罒 罒 置 ［⊙一画で書く］

害 宀 宀 宇 宇 害 害 割（わり） ［⊙まっすぐ下におろす］［⊙はねる］

除 阝 阝 阡 阡 阡 除（のぞ） ［⊙つき出ない］［⊙はねる］

中学

手紙を畳んで、そっと封筒に戻した。手紙を見つけたことは、誰にも言わなかった。誰かの大事な場所に勝手に踏み込んでしまった。そんな後ろめたさを自分の胸にしまい込んだ。

段級

氏名

畳 畳 畳 畳 畳 畳 封 封 封 誹 誹 誹 誹 誰

小畠秋聲先生書